

平成27年度 第2回坂井輪地区公民館運営審議会会議録

実施年月日	平成27年12月14日(月)午後2時～		
会場	坂井輪地区公民館 4階 講座室1	出席委員 8名	傍聴人 1名
出席者	委員	郷扶二子、伊藤智之、高橋真規子、土田幸子、土屋 浩、石川 治、横坂幸子、松尾雅美、中島伸子(欠)、加藤かおり(欠)	
	事務局	坂井輪地区公民館	山田久美子、白井嘉弘、高橋勇人
		西地区公民館	前田和隆、南部浩美
		黒埼地区公民館	鳴海俊明、小竹憲幸
	小針青山公民館	佐野憲昭、渡邊ますみ	
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>平成28年度新潟市公民館事業の基本方針(案)について</li> <li>平成27年度西区公民館事業中間報告について</li> <li>協議(意見交換)公民館の利用者拡大について</li> </ol>		
山田館長あいさつ			
審議内容について以下に記載する。			
1 平成28年度新潟市公民館事業の基本方針(案)について			
坂井輪地区 公民館長	<p>新潟市公民館事業の基本方針(案)について、27年度の公民館事業の基本方針と大きな変更はなく、新潟市教育の大綱、新潟市総合計画や教育ビジョン第3期実施計画の基本的な方向性が示されており、それを元として公民館事業の基本方針を作り上げています。</p> <p>公民館事業の3つの基本方針、6つの重点事業について説明。</p>		
2 平成27年度西区公民館事業中間報告について(資料2)			
坂井輪地区・西 地区・黒埼地 区・小針青山 各公民館長	<p>西区内各公民館長から平成27年度西区公民館事業中間報告として、今年度実施事業の報告及び今後の計画、特に新たに取組む事業についてチラシ等参照して説明。</p>		
3 協議 公民館の利用者拡大について(資料3)			
郷 議長	<p>協議に入りたいと思います。</p> <p>まず、協議に入る前に今年度公民館運営審議会正副議長会議が9月と11月に開催され、私と伊藤副議長が出席して参りましたので、報告、感想等を簡単にお話ししたいと思います。</p> <p>9月に開催された第1回目の報告を伊藤副議長からお願いします。</p>		
伊藤副議長	<p>9月1日に第1回公民館運営審議委員正副議長会議がありましたので、報告させていただきます。</p> <p>出席者は公民館関係8館14名、市の生涯学習センター、公民館長の15名でした。主催者から会議出席者の紹介と職員紹介の後、27年度の公民館事業予算や年次別・年代別の公民館利用者の推移につきまして報告がありました。その後各公民館から27年度の事業計画と現状と課題について発表がありました。北区では、施設利用の増加対策として各団体の活動の発表の場として学校と連携した事業を行う。中央区では、地域連携事業の推進として、地域コミュニティ活動の活性化支援事業をあげていますが、具体策としてはコミ協との関係の再構築や見直し、地域教育コーディネーターとの連携による青少年の事業があげられておりました。秋葉区では、地域連携の更なる推進として、コミ協、小中学校と協働事業を行うほか、実施場所の多様化、いわゆる出前をやるという発表もありました。南区では、従来からの祭りや文化・スポーツなどのイベントのウェイトが高いのですが、公民館職員が応援に出たり、</p>		

伊藤副議長	<p>公民館が主として企画運営にあたりたいということ、今後このような活動には区役所地域課と情報共有化連携を図りながらやっていきたいということでした。西蒲区ではコミュニティ・コーディネーター育成事業として、コミ協や自治会などの団体と連携協力しながら活動を行っていくということ、家庭教育事業では、今後は乳児を対象とした「ゆりかご学級」の開催を区全体で検討、調整していきたいということと、学社民の融合による人づくりとして、地域の公民館と学校が協力、連携して活動を行うということとございました。</p> <p>最後に西区からは、コミュニティ・コーディネーター育成講座修了者が自治協の委員に就かれるなど、公民館活動の成果が見られ、講座が人材育成の場になっているという報告がございました。また、公民館の利用者拡大、新たな取り組みといたしまして「うちのでない」と、「うちの発掘ぶろじえくと」についての内容の発表と、利用団体連絡協議会の今後の在り方について問題が提起されました。</p> <p>各地区の公民館の利用者の減少については非常に苦慮しており、東区、中央区、秋葉区、西区の各公民館では問題として示されておりました。各公民館の発表を聞いて共通して感じたことは公民館利用者の高齢化により、登録団体数の減少や会員数の減少、これに対して利用者の拡大をどうしたらいいかという問題があることを感じました。この対応策としては、各種開催講座の参加者から自主的にグループを作っていたりとか、新しいサークルを結成していただくというようなことをあげております。</p> <p>また、地域との関わりの中で家庭教育の支援だけではなく、中高年向けの講座の開催、コミ協などと連携しながら情報共有して事業効果を高めていくといったことがあげられておりました。考えてみますと、公民館の活動というのは、広く地域住民のニーズを掘り起こして、これに対応した場を提供して、継続的に公民館に足を運んでいただくという仕組み作りが大切であると同時に、課題ではないだろうかというようなことを感じております。公民館で活動している団体が少しでも利用者の増加に寄与していかなければならないと気持ちを新たにしたいところでございます。</p> <p>次いで資料3をご覧くださいと思います。公民館の利用者数は25年度の実績を見ますと72,000件、全体で970,000の方が公民館を利用した人がありますが、団体・グループの利用件数を見ますと83%がサークルです。人員では約70パーセントの人が利用しているということで、公民館に足を運んでいただく団体・サークルの人数が増えないと公民館全体の人数が増えないという状況です。人数には、公民館主催事業でおいでになる方、行政や教育機関で利用される方も含まれております。特に感じた点としては、中央公民館は、ほとんどが主催事業で、サークルの利用も多く、年間121,000人の利用がありまして、そのうちの95%の115,000人が会員の方が利用し、非常に特異的な存在です。幸い西区の公民館においては利用回数では83%、利用人数では78%が団体とグループの利用、残りが主催事業や行政で使っているというような状態です。そうしますとやはり、今回の議題になります利用者の拡大ということになりますと、やはり私どものようなサークルや協議会といたしましても、やはり人員をいかに増やすか、利用者をいかに増やすか、といったことに主力を置かないと、毎年下がっていくようになるのではないかと懸念しております。</p>
郷 議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、引き続き第2回目が11月に行われましたので報告します。</p> <p>この会議では公民館の役割と、公民館の中立性の2点について意見交換をしました。参加者は先ほど伊藤副議長がおっしゃったように各地区の公民館の基幹館長と正副議長でした。最初の公民館の役割については、今日、最初の議題で説明していただきました28年度の公民館事業の基本方針(案)についての説明が行われました。そして公民館の予算について、歳入歳出の説明がありました。歳出では地域と学校ふれあい推進費、地域とともに歩む学校づくりの推進、ふれあいスクール事業、公民館費で地域コ</p>

<p>郷 議長</p>	<p>コミュニティ活動の活性化事業、学び育つ各世代への支援事業、家庭教育充実の支援事業、地域における生涯学習活動への支援事業、青少年の居場所づくり、体験活動・ボランティア活動の支援、市民の生涯学習施設運営への参画、活動協力員への報酬のほか生涯学習施設の管理運営費が計上されています。活動としては、社会資源を活用しながら地域に開かれた公民館にしていくとか、これからは元気な高齢者を対象として皆さんが集まるような公民館活動をしていきたいとか、コミ協とも共有しながら活動していくとか、というお話でした。また副議長がおっしゃったように公民館の利用者が減っているというのは広報がもう一つ足りないんじゃないかとか、公民館のホームページへのアクセス方法については慣れていない人は見にくい、新潟市のホームページから入っていったりすると見にくかったりするので、広報のアピールの仕方というのも解り易くなると良いんじゃないかというような話が出ていました。やはり公民館の活動の中で、良い社会を作っていく、不安のない安心な社会、地域などを作るための役割を担っていくというような話を皆さんでしていただきました。</p> <p>もうひとつは、公民館の中立性についてということで、社会教育法第23条第2項の規定をふまえ、公民館に設置できるチラシについて、事例をもとに今後の取り扱いについて意見交換をしました。</p> <p>それではこれから、正副議長会議にもありました、公民館の利用者拡大について、本日の協議の議題といたしまして、委員の皆様から一言ずつでもご意見を承っていきたくて思っております。今日は口頭だけでの報告でしたが、それを受けてご自分の中で思っていることなど感想を含めまして皆様からご意見をいただきたいと思います。</p>
<p>委 員 (高橋)</p>	<p>今、西地区公民館で利用者拡大ということで「うちのでない」とか、新たな取り組みをしています。今まで、夜に調理実習をする機会は公民館でなかったと思います。このような機会を作って知っていただくところからまず始めないと来館者が増えないので、こういう取り組みこそが利用者拡大につながっていくと思います。また、学生さんの新しい発想であったり、いろいろな情報を聞いて公民館事業につなげていくという、私たちが聞き耳をたてて情報をキャッチする姿勢が必要なのかなということを感じました。今やっている公民館の活動というのが、小さなことでもあるけれども、これが地道な活動によって利用者が拡大していく、本当にシニアを対象にしたいろいろな活動など、すぐに効果が出ないとしても、公民館の活動というのが間違った方向ではなく、正しい方向を見据えた活動をしているということを感じました。</p>
<p>郷 議長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>夜の調理実習は以前はなかったですよ。今回のチラシを見て、公民館はお金がないといつも言っているんですけども、花育マスターや食育マスターなどの市で規定されている講師の方を使って講座を開くとか、いろいろ工夫して学校で開催するとか、いろいろ工夫して事業をやって、活動が多様化してきたというようなことを感じました。</p> <p>あと何かなかったでしょうか。</p>
<p>委 員 (横坂)</p>	<p>利用団体が増えることによって利用者数が増えるということでしたが、以前、非常に団体が増えた時に、例えば子育てサークルで毎週活動が出来ていたのが隔週になったとか、活動が成り立たなくなってほかの場所に移るということが出てきたんですね。子育て時代のお母さんたちというのは、地域にいますよね、産休で仕事を休んでいたりして、地域にとどまっている時期ということと、今後地域を支える人たちになる可能性がある人たちに関っていることなので、惜しいということがありました。利用数が増えれば当然空いているコマが少なくなって、子どもに関わる団体にとっては痛手となって、他に移らざるを得なかった人たちがいたということも事実です。あとは利用料が発生したということも無関係ではないかと思えます。どうぞ子育て中のお母さんたちを地域の財産だと思って、公民館で育ててい</p>

委 員 (横坂)	っていただけたら良いなと思います。実際に育っている人たちを見ているものですから、団体の多さということではなく、団体がどういう活動をして長い目で見たら地域との関わりが出てくるというところまで考えていただければありがたいと思います。
郷 議長	ありがとうございました。 ひとくくりではなくて、いろんな団体があるので、やっぱりその団体によっては少し弊害も起きてくるんじゃないかな。
坂井輪地区 公民館長	活動を希望する時間帯が、例えば午前のコマですと競争率が激しいので難しいと思いますが、午後2時のコマは結構空いている場合があります。公民館としては空いている時間帯にもいっぱい活動してもらえるとありがたいですけども、子育てサークルには厳しいかもしれませんね。
委 員 (横坂)	時間帯と部屋なんですね。せっかくプレールームを作っても、そこが卓球場になる。そこでしか使えない子どもたちは活動できない。調理室でも活動できない。音楽室は密閉環境。以前使わせていただいたのですが密閉された状況だと子どもは怖くて泣くんです。使ってみてわかりましたが、年齢によって使えない場所があるんです。
郷 議長	細かい問題がいろいろありますね。 あといかがですか。
委 員 (土田)	黒崎の館長から紹介がありましたけれど、協力員さんがやっている第2回目の好評だった「豆カフェ」とか、小さなつながりからでも、それを中心に置きながら人と関わり、そこからサークルになる可能性もある。そういう出会いの場みたいな位置づけで場を設定することも公民館に足を運ばせる、気軽にいける、そういう部分で進めていくことも良いことだなと思います。
郷 議長	豆カフェもそうです。タブレット講座にしてもニーズがあって、身近で気軽に足が運べるようなものということなんじゃないかな。
委 員 (土田)	タブレット講座の2回目は？
坂井輪地区 公民館長	タブレット環境が使える状況に設定する時間と経費が掛かるので検討中ということです。 今回の内容は、講師の方から来てもらって、15台タブレットをセットして、図書館の環境に合うように1台1台設定していましたから、かなりの手間がかかりました。講座の狙いは、タブレットを使えるようになるということではなくて、お店などに置いてあるものを怖がらずに触ってみるとか、まず1歩踏み出しましょう、というレベルの講座だったので、きっかけづくりということで人気があったと思います。申し込みも100人以上あったことから、引き続きお願いしているところです。
委 員 (松尾)	さっき広報の話があったのですが、私に関っているコミュニティ・コーディネーター育成事業の方は、企画運営委員が自主的に活動しています。公民館がfacebookをやるとするのは難しいことですが、私たち委員ならやることのできるのだから、公民館としてではなくて委員として講座のPRにfacebookを活用しています。そのおかげか成果発表会ではかなり参加者が増えまして、すごく多かったです。若い方もいらっしやったり、本当に幅広い方々が来てくださいました。公民館だけだとできないけど委員の方とか協力員の方が手を貸すことはできると思います。公民館のホームページは本当に見づらいなと実際に思います。講座の情報をおいしく西区に載せてもらうという形でやったりもしているんですが、広報は別の形がとれるんじゃないかなと思いました。あとは、3期目の講座のスタートの際はなかなか人数が集まらなくて、結局委員一人が一人連れてくるみたいな形でスタートしました。そういう事業もあるのに100人集まる事業もあるとなると、ニーズが変わってきているのか、

委員 (松尾)	もうちょっとニーズに合ったようなことしなきゃいけないのかなというふうに考えられると思いました。
郷 議長	ありがとうございました。 facebookとかはいい方法ですね。
委員 (土田)	タブレットについて、図書館がWi-Fiということだったんですけど、公共施設のWi-Fi環境はないですね。
坂井輪地区 公民館長	ないですね。 公民館として、整備するということは坂井輪の方には聞こえてきていません。 図書館としては、Wi-Fi環境を整備したということで、図書館部分だけです。フロアが違くと電波を拾わないし、制限が多い環境のようなので、民間にある無料のWi-Fi環境のような形で、いつでも、どこでもという感じにはなっていないと思います。
郷 議長	石川委員どうでしょうか。
委員 (石川)	<p>重点的に取り組む分野の現代的課題を探るとというのが、最初見たときにどういう意味か分からなかったのですが、さっきのタブレットの話で、なるほど、こういうふうなところから考えていけば切り口というのはいろいろあるんだと思いました。今は食事に行ってもタブレットで注文する。だからそういう機会があればやってみたいなという方は、潜在的に一杯いると思いますね。今の年配の方は自分が現役の頃は経験していないが、今の新しい技術でやりたくてもわからないというのが一杯あると思うんですね。そこから引き込めるかと思います。それから自分の学校でもそうなんです、普段ボランティア活動などでお世話になっている地域の方々に恩返しをしたいねとか学校で話しているんです。例えば、地域でこういう課題があるとか、或いは地域の方がこういうので困っているとか、こういうのを願っているとかが、学校でわかると、それについて子どもたちにどういうふうな形で、その解決と一緒にやっていけるかなんていうことを知りたいという気もしています。</p> <p>それから地域デザイン講座の実践記録集みたいな、そういうもので地域の課題が少し解ってくると、こちらでも例えば総合学習の中にそういうものを入れたりする、そういうことでまた連携もしていけるのかなと思いました。</p> <p>また、大学があるというのは西区の強みで、先ほどの話で外国人の留学生の方もいれば、いろんな専門分野を研究している学生さんもある。そういう人たちを入れながら、大学生が先生になって講義をすとか、或いは留学生の人たちに自分の国の文化や料理を紹介してもらうのもいいかと思います。</p> <p>あと地域の歴史を学ぶということをウォーキングとつなげると、地域の名所・旧跡を巡ってみるみたいな新しいコラボレーションでいろんな活動に繋げて行けるのかなと思います。</p>
郷 議長	ありがとうございました。
委員 (土屋)	公民館利用者拡大というのは、あくまで来館する人の数なんですか？
坂井輪地区 公民館長	来館というか貸館、部屋を使う人の数です。まず、公民館の機能として貸館という機能があります。団体・グループごとに利用のつど報告書を出していただいていますので、それを集計したものが統計数字の中の団体・グループ数です。それと公民館主催事業や、ほかの行政機関の教育機関の利用者数などの合計で公民館の利用者人数が出てきます。

<p>委員 (土屋)</p>	<p>先ほど中間報告がありました。皆さんがおっしゃったように、多様なニーズに応じた様々な事業を展開して、参加者人数も多いですし学習機会の充実に非常に寄与していると思っておりますけれども、もっと利用者拡大ということになると、やはり的を絞った方が良いんじゃないかと思えます。先ほどタブレットの話で盛況だったと聞きましたけど、これからは高齢社会と言われているわけですから、元気なお年寄りが大勢いるわけですね、この人たちのニーズに応えるタブレットのような、そういう現代的な課題を考えた講座を開いていくと、意欲的なお年寄りが多いですから、参加が多くなるかなという気がします。</p> <p>それから成人が減ってきているわけですが、これもやはり的を絞って「ゆりかご学級」とか、昼間開いても集まってこられる人たちがいるわけですから、そういった対象を絞ってニーズに応えるような魅力的な講座を考えていくと増えていくのかなと思ったところです。</p>
<p>郷 議長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>対象を絞り、的を絞る、これからどんどん増えてくる高齢者のニーズ、そんなものをターゲットに何か新規の事業を行っていくとか、さまざまな意見を皆様から出していただきましたが、他に何かありましたら。</p>
<p>伊藤 副議長</p>	<p>私は若い人にも期待したい。12月26日の中高生バンドの発表会「クリスマス二次会in坂井輪」に期待しています。実は「ふれあい坂井輪まつり」9月の第一日曜に雨の中ですけども、公民館の利用団体と併せて学生さんのバンドが出たんですね。雨の中でも会場は学生さんで埋まったんです。そのバンドがいなくなったらガラとした広場になってしまった。そういう印象があって今度は屋内でやることになりますから相当若い方が集まるのではないかと、非常に期待しています。やはり若い方のニーズを捉えながら公民館を利用していただくのも一つの方法じゃないかとそんな感じがしております。</p>
<p>郷 議長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>公民館に課せられた使命というのは、何事にも必要課題と要求課題があって、いろんな学びの窓口に来てもらって、来たからにはやはりその中で学んでもらいたいものがあると思うんです。例えば耳に痛いようなことでも楽しく、料理でもしながら、思春期の問題なんかもそうですけど、お菓子を作りながらでも来てもらって思春期の今の親たちの気持ちを解きほぐすというか、何か共有できるような場を作る。ターゲットはいろいろ窓口を変えて、学ばなければならないことがあるのが公民館の使命かなというふうに思っています。そうするとこの「クリスマス二次会in坂井輪」で子どもたちの場を作るとか、「うちのでない」とみたいな、地域の食材とか地域の名産をみんなで知ってもらおうとか、様々な学びもあり、楽しい行事もあり、気軽にできる出会いの場で今どきの欲しい情報をもらえる場でと、公民館に課せられたものがドンドン幅広く膨らむような感じがしますが、是非そのあたり皆さんで頑張っていて、私たちも地域要求課題なども耳にしたらいつでもその館に持ち寄るとか直接公民館にお声掛けするとかして利用者の拡大、そして公民館の発展充実に皆で応援していきたいなというふうに思っています。</p> <p>以上でこの協議終わらせていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>みなさん大変お疲れ様でした。以上をもちまして、第2回新潟市坂井輪地区公民館運営審議会を終了いたします。ありがとうございました</p> <p>午後4時終了</p>